

名古屋葵大学 学報

vol. 117

April

2025.04

NAGOYA AOI UNIVERSITY
COLLEGE OF NAGOYA WOMEN'S UNIVERSITY

特集

『親切』を原動力に、未来を創造する
一名古屋女子大学は、名古屋葵大学へ

名古屋葵大学正門



学園訓「親切」 越原春子 筆

『親切』を原動力に、 一名古屋女子大学は、 名古屋葵大学へ 未来を創造する

令和7年4月、名古屋女子大学は共学化し、校名を「名古屋葵大学」へ変更いたします。

名古屋葵大学の初代学長には、本学ヘルスケア研究所長の杉本八郎薬学博士が就任します。

大学は、教育機関であると同時に、研究成果を社会に還元する役割を担っていますが、本学の学園訓「親切」の本質は、勉学で身に付けた知識や力をもって社会貢献することにあります。名古屋葵大学は、来る超高齢社会に向けて、人々の健康や生活習慣の向上、地域医療や社会福祉の活性化に貢献するため、これまで以上に産官学連携へ注力していきます。そこで今号では、本学の産官学連携による社会貢献活動の展開についてご報告します。

名古屋葵大学学長就任について



杉本八郎 名古屋葵大学学長

学園創立110年の令和7(2025)年4月1日名古屋葵大学学長に就任。名古屋女子大学からの伝統を引き継ぐ大学第7代学長。

本学ヘルスケア研究所所長。エーザイ株式会社創業第一研究所所長。世界初のアルツハイマー病治療薬アリセプトを開発。薬のノーベル賞と称される英国ガリアン賞特別賞を1998年に受賞。博士(薬学)。

「親切」な心で未来に羽ばたく

名古屋葵大学の学長就任にあたり、ご挨拶申し上げます。

名古屋葵大学は創立110年の節目の年に共学校となり、名古屋女子大学から名称を変更します。男女共学化が進み、性別に関わらず個人が活躍する社会現状を踏まえての決断です。初代学長・越原春子先生が学園を誕生させた東区葵町の「葵」の文字をとり、変化の激しい時代に、今一度原点に戻るという意味を込めています。

名古屋葵大学は学園訓「親切」を大切にしています。ひとりの人が身近な人に「親切」であること、これを実践することにより、よりよい社会が実現することを願っています。学園の創立者は学園訓「親切」について、思いやりの心にとどまらず、職業を通しての社会貢献こそが「親切」の真意とし、「親切の本義は甘やかしてはなく、むしろ厳

しい鍛錬―肉親にもまさる熱い愛情

に裏打ちされた、きびしさ、にこそ親切の真髓がある」としています。「親切」は

言い換えますと、自分の周囲にいる人に「その身になって考える」ことによ

ります。多くの方が実践することによつて、より良い社会を実現することが出来

ます。

現代社会は、多様な組織やグループ、個人が参画し、人と人、人と資源が世代

や分野を超えてつながる共創社会であり、多種多様な価値観が存在します。

その多様化した社会に生きる皆さんには、自分らしく生きることがぜひ学生生活を通して学んで欲しいと思います。

教育の目的は、世のため人のためになる人間を育て、学生が人生に希望を持って生きることを実践する人間養成

です。「木を育てるには十年、人を育てるには五十年、国を作るには百年の計が必要」と言われています。皆さんには

名古屋葵大学でしっかりと学んでいただき、未来を背負う人材になって欲しいと思います。明治の思想家である徳富蘇峰は、「国家が興隆する時、国民は理想をもって生活し、国家が衰退する時、国民は生活をもって理想とする」という名言を残しています。今の日本の国内外を俯瞰したとき、大きな転換期に入っています。皆さんの一人一人の志が、将来の日本を支えることになるのです。

その意味から、社会貢献のできる学生になっていただきたく、研究に励んでいただきたいと思えます。それを実現するため、名古屋葵大学では「産官学の連携」を重視していきます。産業界や国の研究機関との連携により、在学中から社会貢献できる実績を作つて欲しいと思えます。その拠点のひとつにヘルスケア研究所があります。人生100歳の時代です。しかしそこで大切なことは健康寿命です。現在の日本人の平均寿命は男性が81・05歳、女性が87・09歳です。男女ともに世界でトップクラスの平均寿命を誇っています。しかし日本人の健康寿命は男性で72・57歳、女性で75・45歳と推定されています。ヘルスケア研究所は健康寿命を延ばすことをもつて社会に貢献したいと考えています。

学生の皆さん、ぜひ名古屋葵大学で学ぶ事で人生の目標をしっかりと定めてください。そして実りある学生生活を送られることを心から願っています。

産官学連携による社会貢献活動の展開

1 ヘルスケア研究所
認知症予防運動の講演会

令和6年度は、令和7年4月より名古屋葵大学学長に就任する、本学ヘルスケア研究所の杉本八郎所長を講師に迎え、認知症をテーマとした定期講演会を複数回開催しました。11月9日には、「運動と認知症」をテーマとした講演会を開催し、本学卒業生や地域住民、教職員等、多くの参加者が集まりました。

杉本所長からは、「運動によって脳が活性化し、神経細胞を活性化する物質が分泌されることで、認知機能が高まる。全身の血流がよくなり、脳に酸素や栄養が行き渡ることで、認知症発症のリスクを高める高血圧や糖尿病などの生活習慣病を回避することができる」との話があり、研究実践に基づいた運動効果の説明を受けた参加者は、運動の重要性を再認識していました。



簡単な実践運動を行いました

また、今回の講演会は従来とは一味異なる実践型講演会として企画され、杉本所長の講演の後は、浦和レッズで活躍された元サッカー選手の水内猛講師による

認知機能低下予防運動「シナプソロジー」を実践しました。これは、じゃんけんや足踏みといった簡単な動作を行いながら、視覚や聴覚などの感覚器と注意や記憶などの認知機能に刺激を与えることで脳を活性化させる運動です。簡単なジェスチャーから始まり、難易度が上がるにつれて、思うように手足を動かせない参加者が増えていきましたが、水内講師からは、「上手に動くことが目的ではない。堂々と間違えて楽しくやりましょう」との話があり、皆さん笑い声を上げながら適度な混乱を楽しんでいるようでした。

グループや2人1組での運動では、初対面の参加者同士もすぐに打ち解けて交流し、和気あいあいとした雰囲気の中、笑顔が溢れていました。



参加者からは笑顔が溢れました

2 世界的シェフによる昼食会



健康栄養学科の学生がシェフから指導を受けました

世界的イタリア料理人・奥田政行氏をお招きし、10月23日に、「食材の価値や魅力を最大限引き出す奥田理論」と題した昼食会を開催しました。本学の調理実習設備を活用し、健康栄養学科の学生が、奥田氏から直接指導を受けながら調理を行いました。

理事長からは、「本学は長年、管理栄養士養成校として、社会に有為な人材の育成に努めてきたが、管理栄養士においても、奥田シェフの知見、技術は大いに学び吸収するべきものである」との挨拶がありました。

コース形式の料理を楽しみながら、奥田氏の講演もあり、世界を舞台に活躍するシェフの科学的理論や、一流の味に触れることができました。外部からは連携協定締結校である瑞陵高校の教職員や、瑞穂区役所の職員をご招待し、本学の取り組みを知っていただく機会にもなりました。

3 名古屋葵大学災害食・宇宙食
開発プロジェクト

名古屋葵大学では災害食・宇宙食開発プロジェクトとして、きくらげ・味噌を使用したレシピを募集し、年齢を問わず多くの応募がありました。きくらげは、本学が所有する営農型太陽光発電設備で栽培されており、骨が弱くなると言われる宇宙での生活に効果的な栄養素を豊富に含んでいます。

産学連携の一環でもあるこのプロジェクトは、「つけてみそかけてみそ」で有名なナカモ株式会社ともコラボレーションしています。

入賞作品は審査委員長のイタリア料理人・奥田政行氏によって審査され、3月に本学で開催される昼食会でお披露目されます。その後は宇宙飛行士の野口聡一さんが国際宇宙ステーションで取り組んだ「宇宙でハーブを育てる」実験に参加し、地上での実験を担当した健康科学部の片山直美教授を通じてJAXAに提案する予定です。



ナカモ株式会社との産学連携企画です

記念対談

越原もゆる 理事長

杉本八郎 学長



令和7年4月1日名古屋葵大学学長に就任。名古屋女子大学からの伝統を引き継ぐ第7代学長。エーザイ株式会社創薬第一研究所元所長。博士(薬学)。

学校法人越原学園理事長・学園長。名古屋女子大学短期大学部学長。名古屋女子大学文学部卒業。東京農業大学大学院農学研究科食品栄養学専攻博士後期課程修了。博士(食品栄養学)。

学園訓「親切」を大切に 世のため人のためになる人材育成

越原 本日は名古屋葵大学学長に就任されます本学ヘルスケア研究所所長、杉本八郎薬学博士に本学の目指す未来について伺います。杉本新学長は、世界初のアルツハイマー病治療薬アリセプトを開発され、英国ガリアン賞特別賞を受賞された世界的研究者です。はじめに、杉本新学長からご挨拶を兼ねて自己紹介をお願いいたします。

杉本 私は製薬会社のエーザイに勤務していた時代に母親が認知症になり、当時は認知症の薬がなかったため、薬がないなら自分で作ろうと思ったことがきっかけで世界初アルツハイマー病治療薬を開発しました。その後京都大学、同志社大学教授として教育研究に携わってきました。この度は名古屋葵大学学長に選任され、大変光栄に思います。

越原 本学は令和7年度に学園創立110周年の節目の年を迎えます。この節目の年に共学化し、名古屋葵大学として新たな一歩を踏み出します。共学化は世間から高い評価をいただいております。学生募集においても年内推薦入試が終わった段階ではありますが、近年稀にみる好調な状況です。本学は今後、共学校として学園改革を進めていきます。杉本新学長のご意見を踏まえ、令和8年には健康栄養学科に管理栄養士養成とは別のサイエンスの観点からの新コースを設置したいと考えています。令和7年度からは家政学部を生活環境学部に変更しますが、令和9年度には文理融合の観点から環境デザインに関連する新学部の創設も構想しています。

短期大学部は募集停止となりますが、全ての在学生が卒業するまで、これまでと同様、大切に育成して参ります。共学化に向け施設・設備整備も進めています。創立者越原春子先生の郷里で実施する、越原研修のセミナーハウスも男子学生の参加に向け整備しています。

名古屋葵大学の「葵」の文字は学園創立の地、名古屋市中区葵町に由来し、今後も変わらず建学の精神を貫いていくとの思いを込めています。本学は大正4年の創設時から学園訓「親切」を掲げていますが、「親切」とは思いやりの心にとどまりませんが、本学での学びを、職業を通じて社会に還元することがその本質です。本学園の建学の精神は「高い教養を身に纏った、よき家庭人であり力強い職能人を育成すること」です。共学化に向けてのキーコンセプトは「共創社会 葵で凛々しく」ですが、「葵で凛々しく」に本学のオリジナリティがあり





ます。「凛々しい」とはぶれない芯の強さを示しています。学園としても、大正4年から揺るぎない本質と、時代の変化への対応を大切にしていきます。これは社会や学生だけでなく教職員にも言えることです。

ここで、杉本新学長に、教育の目的をお話しいただきたいと思えます。

杉本 教育の目的は「世のため人のため」になる人間を育てることです。「世のため人のため」の志を持った人がどれだけのかが、将来の日本を支えます。学生の皆さんには、生きる目的をしっかりと持った人間に育ってほしいと考えています。

越原 学園訓「親切」にありますように本学での学びで身に付けた知識や技能を、職業を通して社会に役立てることは、自分のためであり人のためでもありますね。

杉本 「親切」は「世のため人のため」とい

う考え方と非常に近いですね。現代は「自分ファースト」の考えが社会の混乱のもとになっていると思えます。そうではなく、自分を後回しにしても「どうぞお先に」といえることが、「親切」だと思います。これは、社会を変える新しい言語だと考えています。

学際的・学部学科横断的な研究と産官学連携の推進

越原 杉本新学長を学園にお呼びした目的は、産官学連携もさることながら「学際的・学部学科横断的な研究力の底上げ」にあります。これらも踏まえ、本学第7代学長としての抱負をお聞かせください。

杉本 本学から将来、社会に貢献し国柱となる人材を輩出することが私の夢です。ポイントは、まず学生が「学問への興味」を持つこと。学生は、面白いと思えばどんどん勉強します。それから「世のため人のため」という考えを理解してもらおうこと。昔は自然がそのことを教えてくれました。例えば私たちの心臓は一刻も休まず他の臓器のために生きています。樹木は二酸化炭素を吸って酸素を出し、周りのために生きています。なぜ人間は、自分中心なのか。教育の場から変えていく必要があると考えています。

越原 本学の学園訓「親切」が杉本新学長の言われる人材育成に繋がっているのですね。杉本新学長は10月から100に迫る数の講義を参観しておられますが、本学の指導力、研究力の問題はどうか見ておられますか。

杉本 本学に限ったことではありませんが、教員と学生が少し一方通行になっている



かもしれません。学生がただ聞いているだけでなく自ら発言し教員に問いかける時、そこに学生自身の意志があり、意志があれば主体的な行動が変わります。学問研究では自ら主体的に探究することが大切です。今はインターネットがあるので自分で調べればわかります。教員と学生との間にもう少し交流関係があれば、変わるきっかけになると感じました。

越原 まずは、勉強が面白いと学生に思わせることが大切ですね。

杉本 学生が本気になるきっかけを教員が作ることができれば、教育は成功だと思います。

越原 本学は今後、来る超高齢社会に向け、従来以上に産官学連携に注力したいと思つています。この産官学連携は、学際的・学部学科横断的に進めたいと考えています。

杉本 ヘルスケア研究所では認知症の予防と治療を中心に産官学連携を進めていきます。私は長く産業界にいましたので、その経験を活かし、産官学連携に基づく商品開発を進めたい。地域社会に対する啓発活動も行っていきたいと考えています。

越原 本学の教育研究を通して地域社会の健康に貢献することができそうですね。本学には栄養や看護、リハビリテーション、生活環境、教育に関する分野がありますが、学際的研究の可能性はいかがでしょうか。

杉本 これまでにはある意味で研究内容を教員の自主性に委ねていた部分があり、学園として研究の方向性が定まっていなかったと思います。現在、紀要編集委員会や教育・基盤研究助成委員会等の各種委員会を設置していますが、戦略研究本部（仮）を設置し、学園として社会情勢やニーズを踏まえた然るべき研究の方向性を示し、組織的な共同研究を行っていきます。

越原 最後に第7代学長として、本学学生に期待することは何でしょうか。

杉本 学生の皆さんには夢をもってもらいたいです。そして夢を実現するために自分に何ができるのか真剣に考えてほしい。それが分かったら行動に移してください。行動することで夢の実現に繋がります。

その根底には「世のため人のため」の考えがあり、それは生きる目的でもあるのです。

越原 この先、令和8年度には付属幼稚園が認定こども園となり、中学校・高等学校も総合学園として体制を強化して参ります。本日は、ありがとうございます。

杉本 ありがとうございます。

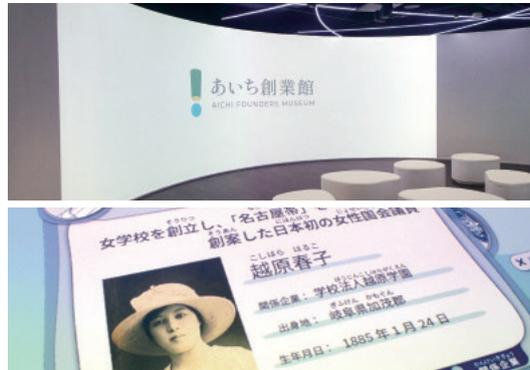
名古屋葵大学中学校・高等学校の共学化について

令和7年4月より名古屋女子大学を共学化し、あわせて校名を「名古屋葵大学」に変更いたします。これに伴い、名古屋女子大学中学校・名古屋女子大学高等学校も、「名古屋葵大学中学校・名古屋葵大学高等学校」に変更いたします。

中学校・高等学校については当初、女子教育を継続することとしておりましたが、今般、総合学園としての一体性を持たせ、男女共同参画社会の創り手を男女問わず学園全体で育成するために、令和8年4月より中学校・高等学校を共学とすることを決定いたしました。

本学園は、今後も女子教育で培ってきた伝統や校風を大切にしながら、建学の精神のもと「高い教養を身にまとった力強い職能人」の育成に努めてまいります。

「あいち創業館」越原春子先生、愛知の偉人として常設展示される



上:あいち創業館/下:偉人のイラストアイコンに触れると映像で浮かび上がる



ナナちゃんストリートの天吊パナー

11月1日、鶴舞の「STATION Ai」2階に「あいち創業館」が開館しました。同館はトヨタグループ創始者 豊田佐吉氏、ソニーグループの基礎を築いた盛田昭夫氏など愛知県にゆかりのある革新的な事業を興した創業者・経営者60名の業績を発信する施設で、越原春子先生も愛知の偉人として、また女性6人中の一人として社会的実績が紹介され、「女学校を創立し、『名古屋帯』を創案した日本初の女性国会議員」として、名言・エピソード、学園の変遷が展開します。女学校教員になるべく勉学を始めた20歳の時に詠んだ「初日の出大海原にもえのぼる」や、61歳で日本初の女性衆議院議員となった時の「女性の実質的解放を期す」など、逆境を乗り越え、挑戦してこられたからこそその6つの名言が背景とともに解説され、未来を切り拓くヒントになっています。

中高新体操部 インターハイ報告会



学園から記念品として名古屋帯柄のハンカチと花束が贈られました

令和6年度インターハイにおいて、名古屋女子大学中学校、高等学校の新体操部が、個人優勝、団体準優勝という素晴らしい成績を残しました。9月2日に大学で学園長への報告会が行われ、個人優勝の鶴田さん、キャプテンの姫野さんから結果報告と、今後の意気込みが語られました。学園長からは、「一人一人の努力はもちろん、お互いが切磋琢磨し合った結果であり、本学園の誇りに思います」とお祝いの言葉が述べられました。

越原記念館

越原記念館が「名古屋市高齢者はつつ長寿推進事業」に協力



参加風景

「名古屋市高齢者はつつ長寿推進事業」は、健康増進活動やレクリエーションなどを通じて介護予防や仲間づくり、地域活動への参加促進を目指す事業で、瑞穂区社会福祉協議会が受託し実施しています。越原記念館と同協議会が地域連携「お出かけ企画」として、企画展「近世の村すがたを映す越原家庄屋文書」の見学会を実施しました。機織り実演や記念館クイズも行い、10月に瑞穂区内8会場のコミセンから171名が参加しました。

越原記念館

企画展「近世の村すがたを映す越原家庄屋文書」授業見学



生活環境学科1年「初年次演習」での見学風景

この企画展では学園名・創業者姓の発祥起源となる村文書に焦点をあて、創業者越原春子先生の郷里と背景、創業者家が社会的、教育的、政治的に村の中心であった資料を紹介しました。学生は多くの授業とゼミで展示を見学し、本学の学びの領域である衣食住・情報・教育・ビジネス・食と健康などの視点から、村発展のため各事業を展開した資料をはじめ、村のなりわい・くらし、村人の結婚・家族構成・老後の姿も含め解説を受けました。

優良防火管理事業所として表彰



瑞穂消防署長より授与された表彰状

1月29日に、令和7年の優良防火管理事業所として表彰を受けました。本学では、教職員と学生が参加し、6月には火災防災訓練、11月には地震防災訓練を、実際の被害を想定して実施しています。特に、自衛消防組織の班単位で行う訓練は年々充実し、その継続的な取り組みが防災意識の向上という確かな成果を上げています。今後も、より実践的で効果的な防災活動を進めてまいります。

総合科学研究所

地域貢献事業「若返りきらきらセミナー」の開催



みずほ体操の様子。椅子に座りながらでもできます



みんなで童謡やわらべうたを歌いながら、楽しく体を動かしました

総合科学研究所と瑞穂保健センターの共催企画「若返りきらきらセミナー」を開催しました。この事業は瑞穂区在住の65歳以上の方を対象とし、平成21年度からスタートした介護予防事業ですが、令和元年度末から新型コロナウイルス感染症の影響で休止しており、実に5年ぶりに再開することができました。

保健センターによる「みずほ体操」、児童教育学科による歌、理学療法学科による運動、健康栄養学科による調理等、様々な学部の教員と学生に協力していただき、全5回の講座が終了しました。参加者の方からは、「とても楽しかった」「家でもやってみたい」等の感想をいただくことができました。総合科学研究所では、今後も地域の方々の健康増進等に繋がる様々な活動を企画していきます。

受賞

「Scientific Reports」に論文掲載

内藤紘一 講師(医療科学部)

本学医療科学部の内藤講師らの研究グループが発表した、心臓病患者の日常の身体活動パターンを分析した論文が、世界最大級のオンライン学術雑誌「Scientific Reports」に掲載されました。この栄誉を心からお慶び申し上げます。

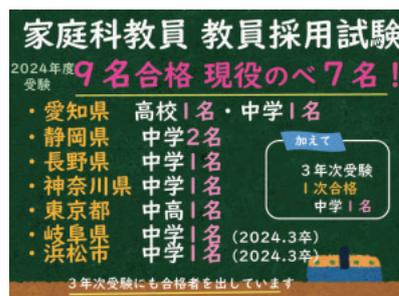
訃報

小川奨学基金顧問
小川郁子 様(94歳)

令和6年11月3日にご逝去されました。故人のご功績を偲び、ここに謹んで哀悼の意を表します。

家政学部 生活環境学科

令和7年度 家庭科教員採用試験結果



家庭科教員として多くのOGが各地で活躍しています

家政学部生活環境学科では、お陰様で教員志望者6名全員が合格し、4月から家庭科教員として教壇に立ちます。教員採用試験合格者は、私立高校1名、愛知県高校1名、愛知県中学1名、静岡県中学2名、長野県中学1名、神奈川県中学1名、東京都1名です。この他、初の3年次受験にも合格者を出し、家政学部最後の年に相応しい快挙となりました。令和7年度からは生活環境学部として、最大限のサポートを行ってまいります。

児童教育学部 児童教育学科

令和7年度 小学校・中学校教員採用試験結果・ 公務員保育職採用試験結果

児童教育学専攻 【小学校・中学校教員採用試験結果】 合格者数22名(受験者数30名) 合格率 73.3%		幼児保育学専攻 【公務員保育職採用試験結果】 合格者数46名(受験者数51名) 合格率 90.2%	
自治体	合格者数	自治体	合格者数
愛知県	11名	愛知県	42名
名古屋市	5名	名古屋市	1名
三重県	1名	三重県	4名
東京都	1名	岐阜県	4名
浜松市	1名	静岡県	1名
横浜市	2名	滋賀県	1名
川崎市	5名	福岡県	2名
合計(並べ合格数)	26名	合計(並べ合格数)	55名

児童教育学科では教員の指導のみならず、学生の自主学習も支援し、教師・保育者を目指す学生の夢をかなえるサポートをしています。令和7年度の教員採用試験は30名が受験し、中学校教員1名を含む22名の学生が合格(合格率73.3%)、公務員保育職採用試験は51名が受験し46名が合格(合格率90.2%)しました。今後も多くの教師・保育者を社会に送り出すことができるよう、さらなる指導・支援の充実を図ってまいります。

健康科学部 健康栄養学科

「時間栄養学」講演会



時間栄養学の第一人者 柴田重信先生

健 康栄養学科2年生を対象として、9月27日に早稲田大学名誉教授柴田重信先生をお招きし、「時間栄養学」についてご講演いただきました。食事の内容や量に加え、摂取するのに適した時間を研究する「時間栄養学」の第一人者である高名な先生の講演を拝聴し、学生は大変感銘を受け、今後の学生生活における食生活の見直しや、栄養指導時の重要なポイントなどについて考える良い機会となりました。(片山直美教授)

健康科学部 健康栄養学科

瑞穂区役所共催 「子どもと朝ごはんレシピ瑞穂区ナンバー1決定戦! 2024」入賞



みずほっぺ賞を受賞した「サバ味噌チーズトースト」



最終審査会での表彰式の様子

子 育て世帯応援を目的とした「子どもと朝ごはんレシピ瑞穂区ナンバー1決定戦! 2024」が、瑞穂区役所との共催で実施されました。今回のテーマは「ローリングストック食材の活用」で、缶詰やレトルト食品、乾物を用いた10作品が入賞し、9月29日に本学で開催された最終審査会には、健康栄養学科と生活環境学科の学生4チームも参加しました。作りやすさ、盛り付け、栄養価、おいしさが総合的に審査され、健康栄養学科1年生柴田結衣さんの「サバ味噌チーズトースト」が、参加者投票で選ばれる「みずほっぺ賞」を受賞しました。一方、審査会で設置された託児サービスには、児童教育学科と保育学科の学生4名がボランティア参加しました。学生は各々の日頃の学びを活かしながら、地域貢献活動において貴重な経験をすることができました。(山中なつみ教授)

医療科学部 作業療法学科

作業療法学科スポーツ大会を 開催



学生と教員が一致団結!スポーツ大会で絆を深めました

作 業療法学科スポーツ大会が、名古屋市総合リハビリテーションセンター体育館にて開催されました。この大会は、学生間の交流を深めることを目的とし、学生サポーターグループ活動の一環として実施されました。大会では、グループ対抗で多彩な種目に挑戦し、優勝グループには記念品が贈られました。学生からは、「先輩や後輩、先生と交流できたことで絆が深まった」といった感想が寄せられました。(池谷政直助教)

健康科学部 看護学科

地域における認知症者への支援の実際 —模擬認知症高齢者(SP)参加型演習—



徘徊している模擬認知症高齢者に「安心できるような声かけ」をしています

瑞 穂区東部・西部いきいき支援センターの『はいかい高齢者おかえり支援事業模擬訓練』と連携し、地域の介護予防リーダーに模擬認知症高齢者(SP)としてボランティア協力していただき、認知症者に対するコミュニケーションの基本と対応方法を学びました。リアルな状況設定での演習を通して、認知症者が住み慣れた地域で安心して生活するために必要な対象の理解と対応方法を深める機会となりました。(富澤栄子教授)

健康科学部 看護学科

看護学科 教員FD研修会 —シミュレーション教育の充実に向けて—



教員がファシリテータ役または学習者役となる参加型研修

看 護基礎教育の新カリキュラムでは、社会のニーズに合った医療を提供できる実践力が問われています。そこで看護学科では、名古屋市立大学大学院看護学研究科 船木淳准教授を講師にお迎えし、シミュレータを効果的に活用した授業設計とファシリテーションのコツの習得を目的とした教員FD研修会を開催しました。教員がファシリテータ役や学習者役となり、実践的かつ有意義な研修会となりました。(富澤栄子教授)

文学部 児童教育学科

ナディアパーククリスマスコンサートに ハンドベルで参加



「きよしこの夜」を全員で声を合わせて歌いました

12月8日ナディアパークでのクリスマスコンサートに、文学部児童教育学科の音楽教育・表現ゼミナール「ハンドベル・クラツ」が出演しました。4年生中心の編成で「きよしこの夜」他3曲のクリスマスの曲を演奏しました。アトリウムスペースでの活動ははじめてでしたが、会場いっぱい広がる美しいハンドベルの響きにお客様からも大変好評をいただきました。教職・保育職を目指す学生にとって、社会での実践力を養う好機となりました。(坪井眞里子教授)

児童教育学部 児童教育学科

瑞穂児童館地域貢献事業「ヒノキの楽器をつくろう」



のこぎりやドリルを使って自分だけの楽器づくり



できあがったトーンタングで演奏会

12月15日、令和6年度総合科学研究所「開かれた地域貢献事業」として、瑞穂児童館で幼児から小学生までの子どもを対象に、ヒノキの木材による自分の音がだせる楽器トーンタングづくりの科学体験ワークショップを行いました。子どもたちは、のこぎりやドリルを使ってヒノキの木材を加工し、自分の好きな音ができるように長さや順番を決めて組み立て、自分だけの楽器をつくりました。自分で木を加工してつくる楽しさと喜び、そしてその楽器をみんなで演奏する喜びを全身で表す子どもの姿が随所に見られました。参加した児童教育学科の学生にとっても、子どもの補助や楽しい演奏のリードで、子どもと関わる貴重な経験となっています。STEAM教育として実践し、音の科学と木材の加工により楽器と音で自分を表現する楽しい講座となりました。(渋谷 寿教授・吉川直志准教授)

家政学部 生活環境学科

「居住福祉論」外部講師講演 —ほんとうのバリアフリー—建築から学ぶ—



健康者と障がい者の双方の視点を持つ建築士 阿部一雄氏

居住福祉論」の授業で地域の中核工務店を営み、自らも車椅子を使用する建築士の阿部一雄氏をお招きして講演会を開催しました。自身の体験から、現状の課題、地域格差、心のバリアを取り除く設計の重要性等を語られ、実例を交えたトータルバリアフリー設計も紹介されました。「誰もががふつうに暮らしたい」というメッセージは、学生にとってバリアフリーへの理解を深める機会となりました。(伊藤陸子講師)

家政学部 生活環境学科

学生考案のレシピが 企業のお弁当メニューに採用



株式会社おおしまのサイトに掲載された「冷やし油そば」

生活環境学科4年生の「食の商品開発とイベント演習」の授業で作成した、梅村佳那さんの「冷やし油そば」の麺メニューが、愛知の企業向けお弁当を手掛ける株式会社おおしまの「9月の冷たい麺メニュー」に採用されました。メニューのキャッチコピーは、「夏でも油そばが食べたい!」、コンセプトは「ボリューム満点! エネルギーチャージ!!」です。このような取り組みは、学生の学びに繋がり大変励みになります。(間宮貴代子准教授)

医療科学部 理学療法学科

「日本理学療法学生協会(JPTSA) 中部支部大会」を本学で開催



ポッチャを体験して学ぶ (右:梅村選手)

9月7日、本学で「JPTSA中部支部大会」を開催しました。理学療法学科2年生が運営主体となり、テーマを「小児×理学療法」として実施しました。在宅リハビリを展開する株式会社Loving Lookの安井隆光氏(理学療法士)の講演や、パラスポーツの梅村祐紀選手とコーチによるポッチャ体験を通じ、小児領域での理学療法士の役割を学ぶ貴重な機会となりました。学生主体の運営で、学びの深さと交流の広がりを実感しました。(石田和人教授)

家政学部 生活環境学科

「ホームページ作成検定」 多数合格



ホームページ作成の課題に取り組む学生

生 生活環境学科2年生の専門科目「ホームページ作成演習」では、Webページ作成の基礎や技術の習得を目指しています。その一環として、日本情報処理検定協会主催「ホームページ作成検定」にも取り組みました。2級合格を目標に、問題集や過去問題を繰り返し学習した結果、38名が合格しました(合格率97.4%)。現在は、上級情報処理士やITパスポート試験などの資格取得を目標に、意欲的に取り組んでいます。(武岡さおり講師)

短期大学部

子どもの権利についての学びを地域へ —児童虐待防止運動(オレンジリボン運動)を通して—



瑞穂区役所玄関に飾られたメッセージツリー



瑞穂区役所2階に飾られた「児童虐待とDV」に関するパネルとクイズ

短 期大学部では、今年も瑞穂区の「児童虐待防止運動」に参画しました。保育学科では、全員が「子どもの権利条約」について学び、「児童虐待」をテーマにして取り組みました。1年生は、瑞穂区役所民生子ども課の方による「名古屋市や瑞穂区の子どもの虐待とDVの現状と支援体制」についての講演を聴きました。学生は、「児童虐待」が身近に起こっていることを知り、保育者を目指す者としての責任を心に刻みました。3年生は「児童虐待」に関するクイズや絵本などを作成しました。更に2年生と生活学科はメッセージカードを作成し、パネル等を合わせて瑞穂区役所や本学図書館に展示し、児童虐待防止の学生の想いを発信しました。この取り組みを通して、地域と共に「子どもを育てる」大切さを伝える良い機会となりました。(鈴木美枝子教授)

学術情報センター

図書館サポーター —他大学サポーターとの交流会を開催—



愛知淑徳大学星が丘キャンパスにて

9 月11日に私立大学図書館協会東海地区協議会主催の「学生協働フェスタin東海」が開催されました。同催事は地区大学の図書館サポーターの交流の場として毎年開催されており、今回は愛知淑徳大学に6大学43名の学生が参加し開催されました。当日は各大学のサポーター活動を紹介するポスターセッションでの情報交換のほか、柏書房による出版業界の現場についての講演を聴講し、多角的に本を理解する機会となりました。

短期大学部 保育学科

「スポーティブ・ライフin瑞穂」参加



保育学科で学んだ知識をボランティアで実践

保 育学科では福祉マインドを備えた保育者養成としてボランティア活動を推進しており、11月23日に名古屋市主催「スポーティブ・ライフ in 瑞穂」に参加しました。専門科目から学ぶ知識や子どもとの関わり方を実践できる機会となります。「身近なものを生かした遊び」をテーマに自作のボウリングや的当て、制作(紙コップけん玉)の場面を設け、子どもたちと遊びを通じた関わりから保育者に必要な実践力を学びました。(藤巻裕昌講師)

短期大学部 生活学科

「瑞穂プロムナード」14号の発行



完成作品を手にする学生

瑞 穂区役所の協力の下、瑞穂区の魅力を発信するリーフレットを作成しました。生活学科2年生8名が、企画書の作成から取材依頼、取材、記事作成・確認、完成品配布まですべてを主体的に行いました。記事の最終確認直前に、メニュー変更や、店舗移転などがありましたが、臨機応変に対応することができました。スケジュール管理の重要性も学ぶことができ、社会に出てからも必要とされる能力を多く身につけました。(箕浦恵美子講師)

クラブ活動

食育サークル「食はぐ」
農家でボランティア



長野県の自然の中でおいしいりんごを収穫

食育サークル「食はぐ」です。私たちは長野県のりんご農家で収穫や荷造りなどのボランティア活動を行っています。1泊2日で季節ごとに旬な果物の収穫をお手伝いしており、自分の予定に合わせて好きな時期に行くことができます。長野県の実りの山々の景色や朝の澄んだ空気など新鮮な気持ちになります。友達と一緒に参加することもできます。自然と触れ合いたい、非日常的な体験をしたい方などでも大歓迎です！
(食育サークル食はぐ部長 藤田百華)

大学祭実行委員会

第73回 名女大祭開催



メインステージで大学祭終了後、実行委員全員でとった集合写真



企画の一つのフォトスポット

第73回名女大祭のテーマは「Puzzle」です。大学祭を通して人と関わり、協力することの大切さを実感し、多くの人と力を合わせることで素敵なものを作り、一人ひとり個性の違う人たちが繋がり、作り上げた大学祭を楽しんでほしいという思いを込めてこのテーマにしました。令和6年度は名古屋女子大学としての最後の大学祭となり、大学祭に来てくださる方々に楽しんでいただけるように実行委員会一同一生懸命企画を考え、準備を進めてまいりました。大学祭当日は来場された多くの方に笑顔になっていただけたように思います。一緒に頑張ってきた実行委員のメンバーと最後の名女大祭を作り上げることができ、嬉しく感じています。大学祭開催にあたってご協力、ご支援いただきました関係者の皆様に心より感謝いたします。
(大学祭実行委員会委員長 岩名 華)

法人本部財務課

学園オリジナルラベル水の制作



学園オリジナルラベル水

令和7年度の校名変更に向けて、オリジナルラベル水を作成しました。ラベルは、新校名「AOI」のロゴと新スクールカラーを基調としたデザインを採用し、大学名も表記しています。このラベル水は、大学のオープンキャンパスや中学校・高等学校の学校説明会で配布され、多くの方に新校名を知っていただく機会となっています。今後もオリジナルラベル水を活用し、新校名の認知拡大に努めます。

入試広報センター

「共に創る未来」
作文コンテスト表彰式



表彰式後の参加者記念撮影

令和7年4月の共学化を記念して実施した作文コンテストでは、共学化のキーコンセプトである「共創社会」の実現に向けた提言を全国の高校生を対象に募集しました。海外を含む72校から119点の応募があり、最優秀賞・優秀賞受賞者のうち4名が10月5日に本学図書館にて行われた表彰式に参加しました。高校生の未来に向けた活気ある提言が、共創社会の実現につながることを期待します。

キャリア支援オフィス

教員採用試験説明会



真剣なまなざしで説明に聞き入る学生

教員をめざす学生への支援の一環として、11月、12月に教員採用試験説明会を開催しました。本年度は名古屋市以外の他、愛知県、岐阜県、浜松市、横浜市、川崎市の6つの自治体から教育委員会の担当者を招き、教員の仕事の魅力ややりがい、採用試験のポイント等を説明していただきました。学生たちが熱心に説明を聞きメモを取る姿からは、自分の将来を想像し採用試験合格に向け一層努力していこうとする覚悟がうかがえました。

地域連携

瑞穂生涯学習センター連携講座

「認知症を正しく知る —自分のために、大切な人のために—」開催

本学の地域連携の一環として、瑞穂生涯学習センターとの連携講座を3回シリーズで開催しました。

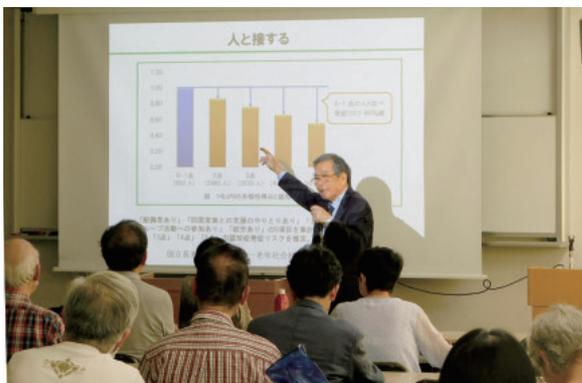
第1回講座

ヘルスケア研究所
杉本八郎 所長（名古屋義太夫学芸会）

本学は瑞穂生涯学習センターとの共催で、「認知症を正しく知る」をテーマに、10月から11月にかけて、全3回の講座を開催しました。

第1回は、地域から44名の参加者をお迎えし、「認知症にならないために」と題して、令和7年度から本学学長に就任する、ヘルスケア研究所の杉本八郎所長による講座を開催しました。

杉本所長からは、認知症は「生活習慣病の一つ」として考えられており、よい生活習慣を実践することで認知症を予防することができること、また認知症には主に脳血管性認知症、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症があり、それぞれの予防に適した生活習慣の改善についても考えていきたい、との説明がありました。認知症予防の日常的な生活のヒントとして、頭を使う、人と接する、適度な運動を実践する、脳によい食べ物を摂取することが、裏付けとなる各種データとともに紹介されました。



杉本八郎所長による講座

英国ガリアン賞特別賞を受賞するに至る、世界初のアルツハイマー病治療薬の開発秘話から身近な生活習慣、日々の心かけのヒントなど、杉本所長のユーモアを交えた幅広い内容の講演に、参加された地域の方々も、時に笑い合い、熱心にメモを取りながら聞き入っていました。

本学では今後も地域に貢献する取り組みを企画して参ります。

第2回講座

健康科学部看護学科
富澤栄子 教授

第2回講座では、「人ごとじゃないよ認知症」と題して、認知症予防と共生社会について開催しました。高齢化に伴い、益々増加が予想される認知症は、生活習慣の見直しで発症リスクを抑えることができ、軽度認知障害では認知機能を維持・回復できることや、認知症者に対する「3つのない（驚かせない、急がせない、自尊心を傷つけない）」の基本姿勢が紹介されました。誰もが互いに尊重し、地域で支え合う共生社会の重要性を再認識する講座となりました。



年齢別人口推移の説明を聞く参加者

第3回講座

医療科学部作業療法学科
今井あい子 講師

第3回講座では、「認知症予防に役立つ運動とは？」と題して、前半は、脳機能の検査を一部体験し、認知症の方の脳機能障害について学びを深めていただきました。また、最新の研究結果から認知症予防に役立つ運動の種類、時間、頻度、強度を紹介しました。後半は、運動課題と認知課題を同時に行う「二重課題トレーニング」を紹介した後、参加者全員で少し難しい二重課題に挑戦しました。まじろっこしさから笑いが生まれ、和やかに講座を終えることができました。



二重課題トレーニングを実施する様子

学生参加型地域貢献事業

「名女健康サロン」開催

本学の特色である「多職種協働」を活かした地域貢献事業「名女健康サロン」を開催しました。

地域連携



骨密度測定チェックの様子

「名女健康サロン」は、健康科学部と医療科学部が合同で行う、地域の方の健康意識向上と生きがい支援を目的とした地域貢献事業です。専門分野の教員による講義や実習など様々な内容で行います。学生も企画や交流を通じてコミュニケーション力を高め、地域の健康問題解決に向けた実践力を磨いています。

2024年度は「ヘルスケア」健康増進のひけつをテーマに、次の内容で実施しました。

■「ロコモって何？知って得する予防の方法」

(理学療法学科)

ロコモチェックと体操による予防方法を、学生と楽しく学んでいただきました。

■「みんなで昔の遊びに挑戦しよう！」

(作業療法学科)

昔の遊びや体験を振り返ることを通じて、認知症予防法のひとつ「回想法」を体験していただきました。

■「足腰の状態を知って健康寿命を伸ばしましょう」

(看護学科)

歩行・骨密度測定会と講演を通して足腰の強化と健康寿命の延伸について学生とお茶を共にしながら学びました。

■「楽しく食べてこころと体の健康アップ」

(健康栄養学科)

学生が考えた冬の簡単スイーツを一緒に調理した後、試食とおしゃべりを楽しみました。

地域の方からは「学生さんが親切だった」「楽しく健康のひけつを学ぶことができた」等の感想をいただきました。本学では異なる分野が隣接する環境を活かし、今後も地域貢献を推進して参ります。

地域貢献事業

「健康アツプ教室」開催

医療科学部では、社会参加の場と健康アップ教室を開催しました。

地域連携



健康アツプ教室の活動風景

医療科学部では、瑞穂区在住の65歳以上の方々に対して、社会参加の場と健康プログラムを提供する目的で「健康アツプ教室」を全6回で開催しました。第1回目では「予防はなぜ必要？健康長寿の

秘けつ！」と題し、この教室の趣旨でもある「人と人とのつながりの大切さ」「外へ出かけることの効用」の講義のあと、「生活機能」アンケートと体力チェックを行いました。第2回目以降は「腰痛・ひざ痛を和らげる秘けつ！」「転ばないための体づくり」「認知症は怖くない！ー生活の工夫ー」などのテーマで、前半は講義、後半は実技を織り交ぜながら参加者間の交流を図りました。特に第4回、第5回目では「健康増進とリハビリテーション」の授業の一環として理学療法学科、作業療法学科3年生が主体となり、安全で楽しめる体操やゲームの企画とリハールに1か月以上かけ、本番に臨み進行を担当しました。

学生からは「不安や緊張もあったが、楽しんでいただきた様子に、あつという間に時間が過ぎた」「実際場面でのリスク管理や身体機能に対応することの大切さを学んだ」という声が聞かれました。学生にとつて達成感と自己効力感を高める貴重な経験の場となり、臨床実習に向けて弾みがつく機会となりました。

名古屋葵大学高等学校

高校生徒の近況

2学期に入り、9月13、14日の両日、文化祭が開催され、来場者数も1,321名と大盛況の内に終わることができました。次いで10月1日からの中間試験、9日の後期生徒会役員立会演説会と続き、24日からは3泊4日で、高二・貫5年の沖繩修学旅行が実施されました。生徒たちは沖繩の歴史、文化、自然などを大いに満喫し、たくさんの思い出とお土産を抱えて無事帰宅しました。11月に入ると、6日には漢字コンテスト、20日からは期末試験と、生徒たちは学業にも真剣に取り組んでいました。

12月4日からの3日間、コロナ禍で中断していたチャリティ募金が、生徒会役員と、各日R代表議員・会計の有志たちにより新瑞橋駅周辺で行われ、166,828円の寄付を集めました。



大声で募金を呼びかけました(CBCチャリティ募金)

冬休みに入っても、多くの生徒が海外研修や冬期講習に参加したり、大学入学共通テストに向けての追い込みをしたり、また新体操部が発表会を開催したりと、とても活発に学校生活を送っています。

名古屋葵大学中学校

中高一貫生の充実した学校生活



探究学習旅行 広島・平和記念公園にて

2学期は9月2日の始業式から始まり、恒例の文化祭は9月13・14日に開催しました。10月1日から中間試験、10月9日には後期生徒会役員立会演説会を行いました。行き先

を広島、神戸、大阪に変更した中等部3年生の探究学習旅行も2年目になり、10月16～18日に実施しました。見学地は広島・平和記念公園、宮島・厳島神社、神戸市内、ユニバーサルスタジオリジャパンでした。幸いにも天候に恵まれ、楽しい旅行になりました。3年生にとっては中学時代の良き思い出のひとつになったと思います。10月17日には、中学1・2年生が校外活動としてジブリパークに行きました。1・2年生にとっても楽しい思い出になったと思います。そして、11月6日に漢字コンテストが行われ、1月からはカルタ取り大会、英単語コンテスト、学年末試験、卒業式、修了式、立志式が予定されており、1年の締めくくりの行事が控えています。

名古屋葵大学附属幼稚園

餅つきの経験

今年度も、食育の一環として、「餅つき」を行いました。餅つきは、日本の新しい年を迎えるにあたる意義深い習わしです。この経験は、子ども達にとっても貴重なものとなりました。当日は、もち米の入った蒸籠をくどの釜の上に置いて蒸していくところから始まりました。薪が燃え、もち米が蒸しあがっていく様子を見たり、温められた石臼の中に入ったもち米の香りを感じたりした子ども達は、これからのようにお餅へと変化していくか、目を輝かせて見守っていました。実際に、お父さん先生が、力強い杵の音を響かせながらお餅をつく様子に興奮状態の子ども達は「ヨイショ」のかけ声にも力が入りました。5歳児は一人で、4歳児は二人ずつで杵を手を持ち、お餅をつくことができ、達成感にあふれた笑顔になっていました。「いそべ・きなこ・あんこ」の三種類のお餅は、お母さん先生に作ってもらい、子ども達は、おいしく食べることができました。5歳児は、花餅作りにも挑戦しました。これらの普段できない体験は、子ども達一人ひとりの心を豊かにしていくことができたと思っています。



お父さん先生と一緒に「ヨイショ」

学園の回想

Remember the history of Nagoya Women's UNIVERSITY

第40回



早川千鶴子さん
(名古屋葵大学
「同窓会春光」会長)

短大17回(昭和43年3月卒)
短期大学部服飾科

名古屋女子大学から 名古屋葵大学へ



坂倉園江先生を囲んで(下段右から2番目が坂倉先生、その左横が筆者)

今年で越原学園は創立百十周年を迎えられます。母校がこの様な歴史を積み重ねる事にそして発展する姿にたのもしさを感じ、又誇りに思います。

私は昭和38年三重県津市の中学校を卒業しました。高校受験は名古屋で行う事になり、母はいろいろな高校をあたり越原春子先生を知りました。そして娘をその高校に入学させたいと思ったようです。高校の入学式に娘と連れ立って出席した母は、校内一円に咲く満開の桜を見て「この桜は日本一」と思ったそうです。

入学した高校にはもう春子先生はいらっしゃいませんでしたが、越原公明校長先生と若き日の越原一郎先生がいらっしゃいました。高校2年生の時には日本初の東京オリンピックが開催され、楽しい学生生活を送っていました。そんな中私はこの学園でお二人の忘れられない先生にお目にかかりました。

お一人目は高校2年生の担任、鬼頭順子先生です。先生は授業の一環で女性結婚すれば料理はおのずから上手になります。洋服のセンスは勉強

してみがいた方がいいですね」とおっしゃいました。以前からデザイナーの夢があった私は迷わず短大の服飾科に進学しました。そこでお一人目の先生、坂倉園江先生に出会いました。短大の二年間は大学祭でのファッションショーがあり、4人一組で洋服をデザインして制作しモデルも行うという苛酷な催しがありました。4人の意見が合わない中、先生はみごとに意見をまとめ上げ4人の気持を一つにさせ、当日の晴れの舞台へといざなつて下さったのでした。

卒業してからも先生のお住まいの東京都町田市に私達は時々お尋ねしました。先生は失明されてからも、国立博物館に出かけたり高名な先生の講義を受けたりと、勉強は最近まで続けられています。

私は30年間春光会の役員をさせて頂いています。学生の時よりははるかに長く同窓会にかかわって参りました。昨年は行事の一つに、創立者のふる里を訪ねてがありました。学園長の越原もゆる先生にご同行頂き、建学のころの講義を現地で行って頂きま

した。先生の講義は百十年の歴史を感じさせない新鮮なものでしたが、確かにそこには春子先生がお生まれになつて少女時代を過ごされた実績がありました。当日はあいにくの雨模様でしたが、学舎から春子先生のご生家に向かう小径には東白川村らしくお茶の木が植わり、小さな花を咲かせている木もありました。小径もご生家もきれいに整備されていて、ここでも私達の心をなごませてくれました。

この様な貴重な体験をさせて頂き卒業生も又、名古屋女子大学から名古屋葵大学への変遷を実感としてとらえ、そして学園と同じ気持ちで同窓会も発展して行ければと願っています。

卒業して50余年たった今、校庭にたずんでみましても、昔の面影はありません。しかし、創立者越原春子先生の教え、学園訓「親切」は、卒業生である私達の心の支えとなつて、今も脈々と受け継がれています。名古屋葵大学へと発展する大学の姿を、春子先生と同じ気持ちで卒業生もまた、応援して参ります。

古文書・古書への招待

vol.46

短期大学部教授 遠山佳治

「深蔵若虚」為越原君 罇堂（印）の扁額を、今回紹介します。罇堂とは憲政の神様と呼ばれている尾崎行雄のことです。これは昭和二年（一九三三）に、本学創設者越原春子先生に贈った書です。

「深蔵若虚」とは『史記』を典故とした「良賢は深く蔵して虚しきが若し」の略です。孔子が若い時、老子から受けた教えで、賢い商人は良い商品を奥にしまっておくことから、真に有能な人間ほど慎重深く、能力や才能を見せびらかさず奥にしまっておき、人間としての深い味わいが出るという意味です。尾崎行雄は、犬養毅らと共に護憲運動を展開し、大正デモクラシーの進展とともに、普通選挙運動・婦人参政権運動も支持しました。

春子先生は、大正五年（一九一六）に、発起人の一人として婦人問題研究会を設立し、婦人の社会的地位の向上、家庭生活の合理化、女子教育機関の拡充など女性の問題に取り組んで来ました。大正一三年（一九二四）に設立された名古屋罇堂会の一員としても活動をしていました。



尾崎行雄扁額

昭和一〇年（一九三五）、本学園は創立の地である葵町から現在の汐路町へ移転しました。翌年、名古屋高等女学校に尾崎行雄を招いて、女学生へ講演会を開催しました。演題は「最も大切なもの」で、個人の生命、財産の尊厳から教え諭され、女性参政権や立憲政治の重要性を説かれました。この時に贈られた書のように、春子先生は、市川房枝らとは異なり、革新的な政治的活動には進まず、教育者の道を歩みました。そして、戦後の昭和二〇年、衆議院議員選挙法が改正公布され、春子先生は、全国初の女性議員の一人、愛知県で唯一の女性衆議院議員に当選したのです。

EVENT INFORMATION

越原記念館 企画展

入場無料

学生作品選抜展2025

令和7年3月8日（土）～8月10日（日）
越原記念館 第3展覧室



学生作品選抜展2025ポスター

美の芽を出し、新たなステージに旅立つ学生たちです。

くらしを彩る生活環境の創造へ学生一人ひとりが自らの心と向きあった結晶…建築、工芸、インテリアデザイン、服飾デザイン、美術教育教材、情報教育教材など多彩な分野から、力強く個性に満ちた学生たちのメッセージをお届けします。

※3月8日（土）・6月7日（土）・7月12日（土）・8月9日（土）・10日（日）はオープンキャンパスのため開館／夏期一斉特別休日[8月11日（月）～15日（金）]は休館

越原記念館 関連企画

参加者募集 入場無料

学生による機織りの実演

—江戸時代から越原家に伝わる織機を使って織りの実演—
令和7年3月8日（土）・7月12日（土）・8月9日（土）・10日（日）
各日13:00～15:00に数回実演 越原記念館 第1展覧室

学園創立者越原春子の実家である庄屋越原家に江戸時代から伝わる織機で、本学学生による織りの実演を行います。越原家に伝わる機織り関係の道具の展示とともに、織機を使って織った木綿地などをご紹介します。

越原記念館 関連企画

参加者募集 参加無料

体験イベント

—飛び出すポップアップカードをつくろう!—
令和7年3月8日（土）13:00～15:00 越原記念館 1階ロビー

開くとパッと飛び出る立体のカードづくりを体験します。インテリアやメッセージカードとして、しかけ紙細工に挑戦しましょう。

※当日12:30より申込先着20名・所要時間はお一人30～60分程度

※当日の機織り実演・体験イベントの実施有無につきましては、当館HP・代表電話等でご確認ください

BOOK INTRODUCTION

本学教員の著書の案内

特別な教育的ニーズのある児童を含む全ての児童への支援

堀部要子 著



校内支援システムやスクールワイドSSTなど、公立小学校で実践した「教育的ニーズのある児童を含む全ての児童への支援」の内容と方法を紹介しています。

(ジヤース教育新社)

最新リハビリテーション基礎講座 生理学

玉木徹 分担執筆



生理学は人体の機能について学ぶ分野です。本書は理学療法士・作業療法士にとって必要な、基本的な知識をわかりやすくまとめたテキストです。

(医歯薬出版)

アメリカ文学にみる女性の教育

羽澄直子 共著



本書は「女性の教育」をテーマに、アメリカの女性作家の作品に描かれる、家庭や社会で学び、教え、成長する女性の姿を解読したものです。

(彩流社)